

世界を知る

2024.11.08

モルドバ大統領選、親欧米の現職サンドゥ氏が再選

[キシノウ 3日 ロイター] - 旧ソ連のモルドバで3日に行われた大統領選の決選投票は、親欧米の現職サンドゥ大統領が親ロシア派政党の支持を受けたストヤノグロ元検事総長との接戦を制し、再選を果たした。

選挙管理委員会によると、開票率98%の時点でサンドゥ氏の得票率が54.35%でストヤノグロ氏を上回った。

サンドゥ氏は勝利宣言し、「全ての人のための大統領になる」と述べた。

サンドゥ氏の支持者らは今回の勝利について、欧州連合（EU）加盟に向けた動きを加速させるなど同氏が進めてきた親欧米路線が支持されたとみている。ただ、ストヤノグロ氏の善戦はサンドゥ氏の与党が来年夏の議会選で厳しい戦いを強いられることを示唆している。

1991年のソ連崩壊以降、親ロシアと親欧米の間で揺れてきたモルドバの将来は、2022年に隣国ウクライナにロシアが軍事侵攻して以降、注目が集まっている。

また、EU加盟を目指す別の旧ソ連構成国ジョージア（グルジア）で先月、親ロシアの与党が勝利したこともあり、欧州ではモルドバの選挙に注目が集まっていた。

今回の選挙では、大規模な有権者買収や選挙妨害などの疑惑も浮上した。サンドゥ氏の国家安全保障顧問は3日、「われわれの選挙プロセスへのロシアの大規模な干渉が見られる」とXに投稿した。

- 前回話題にしたモルドバの大統領選挙
- 親EU派サンドゥ氏再選
- 親ロシア派前ストヤノグ氏も善戦したので来年の議会選挙を注目
- ロシアの選挙介入も問題となる
- EU側が今後どう対応するかもポイント





福島第一原発の核燃料取り出し

福島原子力発電所の廃炉作業

- 2011年3月11日 東日本大震災の津波で原子炉被災
- 炉心冷却装置の電源が喪失した為燃料がメルトダウンを起こしてしまい、原子炉を破り原子炉建屋内に漏れる
- 現在は水を注入して冷却状態
- > 原子炉・建屋内の溶けた燃料＝燃料デブリ
- これを取り出さないと原子炉を解体できない
- 燃料デブリの量は1～3号機で880t
- これを2051年をめどに取り出す計画である

今回の取り出し方

- 10月30日にロボットアームでデブリをつかむ
- 10月31日に容器外に取り出す
- 11月1日に格納容器の壁を通る配管まで引き戻す
- 今週末までに外部に取り出す > 線量を計測
- その量3g(5mm)
- 日本原子力研究開発機構、日本核燃料開発KK、MHI原子力研究開発KKの計4施設で分析を行う
- 日本原子力研究開発機構(JAEA)では米スルーマイルズ島原発の燃料デブリの研究を行っていた

余り知られていないこと

- この段階で知ったこと
- スリーマイルス原発の場合燃料デブリは原子炉内のみ
- 福島第一原発の場合は格納容器まで漏れ出す
- コンクリートや配管の金属と高温で反応して現在に至る
- デブリが多くなっているのとまだ未知のデブリである
- JAEAではウランとコンクリート等を混合した模擬デブリ作成
- この模擬デブリと取り出したデブリを比較する
- 事故の状況を明らかにする

まだ本格的な取り出しではない

- グレーチング（溝の蓋）にこびりつくデブリ
- 本体内でツララ状に垂れ下がっているデブリ
- 原子炉の底に溜まっているデブリ
- 格納容器の底で固まっているデブリ
- 水の中にある場合と水の影響がない部分



- 固さ、温度、厚さ、広がり状況などを調査
- 引きちぎるだけでなくレーザーでカットできるか？

- 今日の朝刊の記事
- デブリの取り出終了
- 原子炉建屋内の保管庫に入れた
- 2030年から本格的に取り出す作業に
- 事業費8兆円(最終処分費含まず)
- 廃炉費用は東電
- 毎年2600億円積立

デブリ初の取り出し

成分分析し廃炉工程検討

福島第一

東京電力は7日、福島第一原発2号機の溶け落ちた核燃料(燃料デブリ)の試験的な取り出しを完了したと発表した。燃料デブリを取り出したのは、2011年の原発事故後初めて。成分や構造を分析し、今後の取り出しや保管方法の検討に生かすという。▼7面＝廃炉費膨張、14面＝社説、33面＝果てしない道のり

福島第一原発は、東日本大震災による津波で電源を失い、原子炉を冷やせなくなった。1〜3号機は、核燃料やまわりを覆う金属が溶け落ちた。これが冷えて固まった燃料デブリが推計約880トナある。非常に強い放射線を出し、人が近づけず、詳しい成分や硬さはわかっていない。

東電によると、今回採取した燃料デブリの大きさは5センチ以下、重さは3センチ以下とみられる。この日は、原子炉格納容器の外側に設けた「隔離箱」から燃料デブリが入った容器を出し、バケツ型の容器に収めた。その後、重さや放射線量を測るために原子炉建屋内の専用設備に移したという。

取り出しは、廃炉の最終段階の作業とされる。政府や東電は2051年までの廃炉完了を掲げるが、課題は山積みだ。当初、試験的な取り出しは21年に始める方針だったが、しかし、ロボットチームの開発が難航するなどして、3回延期。過去の調査で実績のある「釣りさお式装置」を使うことになった。8月22日、

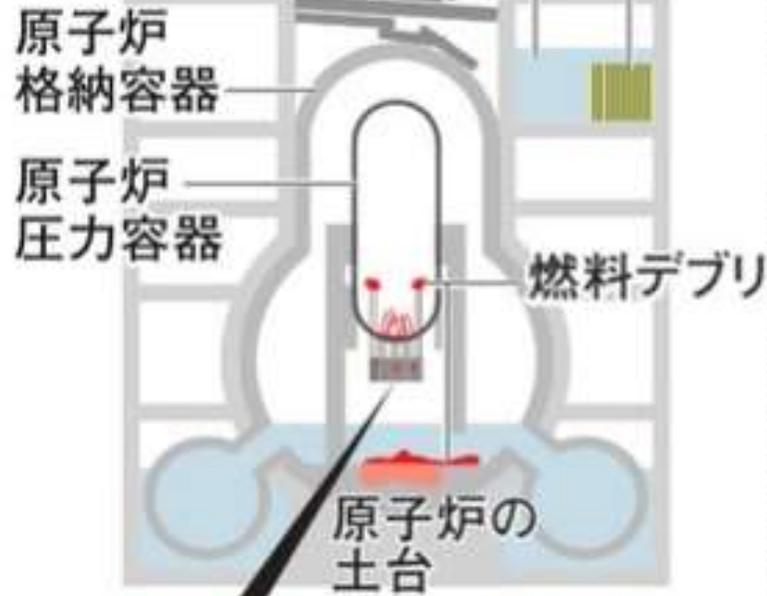


着手直前で装置の接続順のミスが発覚。9月10日、当初計画から3年遅れで取り出しに着手したが、その後、カメラの映像が確認できなくなり、作業が中断した。カメラを交換し、10月28日に作業を再開した。(矢田文)

東京電力福島第一原発1～3号機の状況 東京電力の資料などから

1号機

使用済み燃料プール 392体



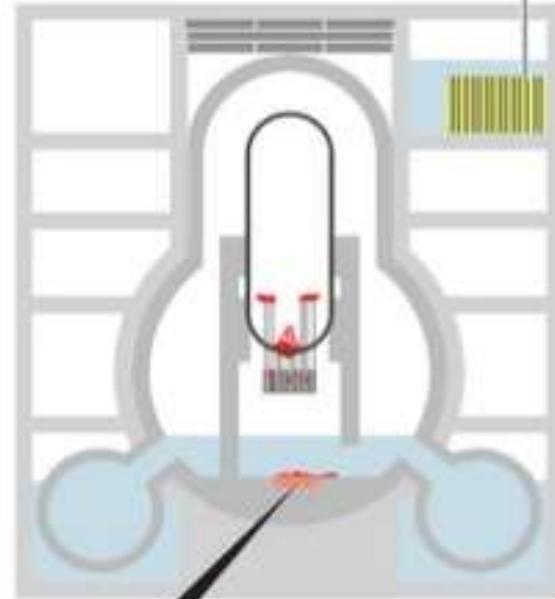
燃料デブリの推計量
279トン

今後の計画
取り出し開始は最後になる見通し

24年3月調査
=東電提供

2号機

615体



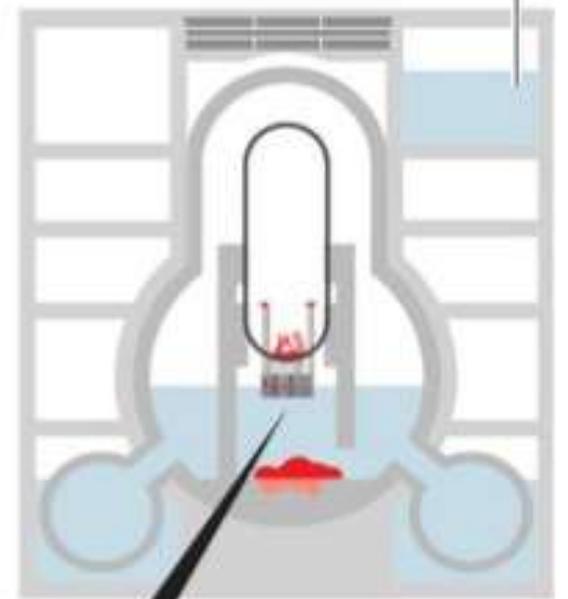
237トン

試験的取り出しの後、取り出す量を徐々に増やす

19年2月調査
=東電提供

3号機

2021年に取り出し完了 0体



364トン

30年代初めの本格的な取り出し開始をめざす

17年7月調査
=国際廃炉研究開発機構提供

まだ先が見えてこない廃炉作業

- 今回のデブリが他と全て同じタイプとはいえない
- デブリがまた臨界状態になってしまうものなのか
- 今回の試料で次のステップに踏み出す
- 想定外であれば新たな方法を考案しなくてはならない
- デブリを放射線を少なくする充填剤で固める
- > 世界初の方法 ⇒ 放射性廃棄物が増加
- 福島県は取り出したデブリは県外での処理を希望
- 処分地、処分方法などまだ未定の部分が多い

アメリカ大統領選挙



ハリス氏とトランプ氏 支持率の平均 (各種世論調査)



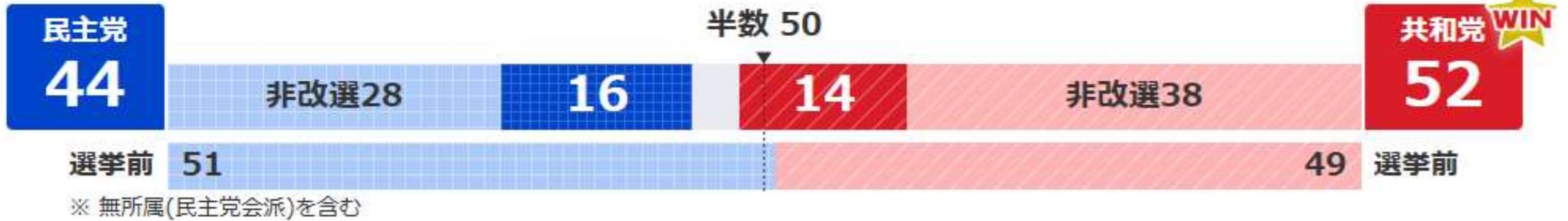
出典：RealClearPolitics

上院・下院の改選状況

■ 民主獲得議席 ■ 共和獲得議席 ■ 無所属 □ 未確定

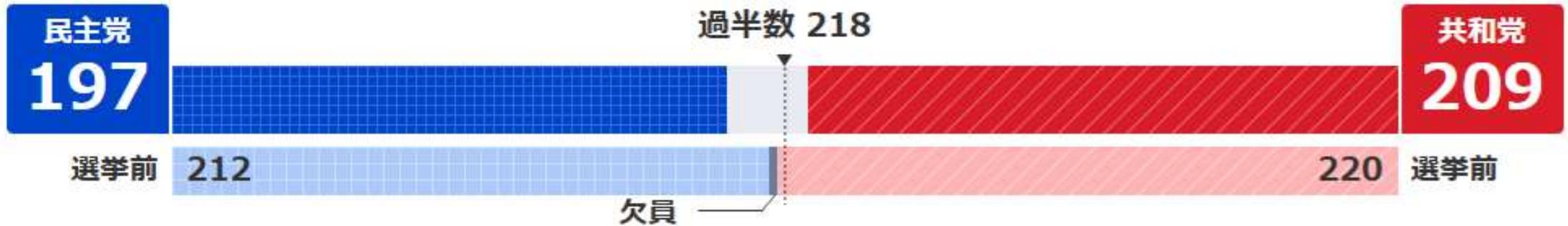
上院 改選 34 / 定数 100

残り4/34議席



下院 定数 435

残り29/435議席



※データはAP通信・ABCなど

トランプ氏はほとんどの有権者層で 4年前より支持を広げた

米有権者の出口調査から、フィナンシャル・タイムズまとめ
2020年大統領選からのトランプ氏と民主党候補との得票率差の増減



- 開票に数日かかると言われていたのに1日で決着
- 僅差の州が無かった
- 総投票数でも圧倒的にトランプ氏が得票した
- 投票率64.52%戦後2位
- 得票率が高い時には民主党が勝利の法則が崩れた
- 今回の選挙で多くの人たちがトランプ氏に投票

このような結果になった理由

- 物価高が大きく影響した
- 特に低所得者層には深刻な影響となる
 - > 基本民主党支持者だったのが離れてしまった
- ガザ情勢も影響する
- バイデン大統領がイスラエルに武器を供与 ハリス氏も同様
- アラブ系の人たち、大学生たちが離れてしまった
- 隠れトランプ > 隠れハリスの数
- これは議会議員選挙にも影響した

選挙前のペンシルベニア州で見ると

- 男性の42%がハリス氏、56%がトランプ氏を支持
- 女性の55%がハリス氏、43%がトランプ氏を支持
- ハリス氏は、18歳～29歳、30歳～44歳でそれぞれ53%
- トランプ氏は、45歳から64歳が53%、65歳以上で50%
- 白人の支持はトランプ氏が54%、ハリス氏が44%
- 黒人の支持はハリス氏が90%、トランプ氏が9%
- ヒスパニック系・ラテン系の支持ではハリス氏が57%、トランプ氏が42%

激戦州で見ると

- パンシルベニア見ていただいたがほぼ同じ傾向である
- 男性はトランプ支持 女性はハリス支持
- 若者はハリス支持 中高年はトランプ支持
- 白人はトランプ支持 有色人種はハリス支持
- 例外はミシガン州で老年層がハリス支持
- 男女差 年齢差 人種差でほぼ同じ傾向である



- 隠れトランプという層がかなり多かったという事なのか

ハリス氏が伸びなかった理由

- 初の女性大統領という売り込みの仕方はしたくない
- 女性の権利をしっかりとつかみ取る > これに拘った
- 物価高と経済問題の不安を抱える国民に対応できず
- > 全米トラック運転手組合が支持をしなかった
- トランプ氏が繰り出す偽情報に十分対応できなかった
- > 9月下旬のハリケーンで災害支援金を不正利用した
- イスラエルへの武器支援 ⇒ ハリス氏も肯定していた
- > アラブ系やイスラム教信仰者が離反

ガラスの天井を突き破れなかった

- 有色人種に対する偏見の根強さ
- 黒人男性の考えの中に女性は表に出るものではないという強い考え方
- キリスト教の考えの「墮胎の罪」を強く支持する人たちを切り崩せなかった
- >リベラルな女性たちをひきつけたがその量は多くない
- 大統領権限を女性に任せることが出来るのか
- >軍の統帥権は大統領である⇒核のボタン

ドナルド・トランプ氏

生年月日

1946年6月14日

出身地

ニューヨーク

学歴

ペンシルベニア大ウォートン校

経歴

2017年 第45代米大統領に就任
政府・軍での職務経験のない初の大統領
2020年 大統領選に出馬するも再選ならず

人物情報

- ・リアリティ番組の元司会者、趣味はゴルフ
- ・ホテルやカジノを展開し「不動産王」の異名を取った
- ・大統領就任時の公約は「米国を再び偉大にする」
- ・大統領在職中に弾劾訴追される(米史上3人目)



- ・年齢 78歳
- ・政府・軍での職務経験のない唯一の大統領
- ・その為に既成の政治にない方法を取ることがありそれが土両面となる
- ・個人的なつながりを大切にする
- ・協調性があるとは思えない

トランプ氏が大統領としてやること

- アメリカ第一主義を柱にする
- 国内産業を豊かにするための方策をとる
- 斜陽産業を支援 > 鉄鋼・石油・石炭 国産EVはOK?
- EV化には消極的 > イーロン・マスク氏はどうするのか
- 国内で出来るものを輸入する場合高い関税を課す
- 個人所得の減税
- 企業所得の減税
- > 税収が減るのを何で補完するのか > 消費増大

公約にしていたこと

- 民主党がアメリカを破壊してきた
- これを是正する
- 不法移民を即刻追放する > 史上最大の返還
- 彼らは犯罪者であり麻薬を持ちこんでいる
- 国境の壁を強固なものにする
- 前回の議事堂襲撃事件の被告を解放する
- 今行われている裁判は全て破棄する
- 自分の意見を聞かない人物は切る

対外政策は

- 力を使った抑止力をポイントと考えている
- 軍事産業の改革を行いより強い軍隊を作る
- 台湾等への進出が出来ないように圧力をかける
- その為に周辺国に多くの支援を要求 > 武器・資金
- 世界各国で協調して進める政策には乗りにくい
- グループで論ずるより個々と論ずることによって成果を得るようにする
- アメリカが過剰な負担を担う事はしない

対外政策

- 輸入関税を10～20%にする
- 国内産業をこれで守る
- 中国からの輸入に対しては60%の関税をかける
- 中国の技術を締め出す
- 台湾の半導体に依存していると台湾侵攻で打撃受けるのでそうならないように
- ウクライナ支援で多くの物資を使いすぎたという反省
- 親イスラエ尔的な態度を取ってきたので中東情勢は？
- ウクライナは即停戦、イスラエル情勢も終わらせると言っている

各国の反応

欧州

ドイツ・フランス国防相が急きょ会談。「米国に安全保障を委ねることはできない」

中国

習近平国家主席が祝電。動きが読みにくく警戒するが、台湾問題では「理解」が進んだとの期待も？

韓国

尹錫悦大統領がトランプ氏と電話。北朝鮮兵のロシア派遣など議論

イスラエル

ネタニヤフ首相がいち早く電話。イランの脅威について協議

台湾

頼清徳総統が祝意。支持に期待しつつ、新たな要求に懸念も

フィリピン

マルコス大統領が声明で祝福。対中国を念頭に、米比同盟の意義を強調

トランプ氏当選を受けた各地の動き



(AP)

- すでに70か国以上の首脳と電話会談
- 最も早かったなのはネタニヤフ氏
- 習近平とも会談して祝福を受けた
- 石破氏もトランプ氏から電話＞G20後にアメリカで面会か
- プーチン氏ともしたい

対日政策については

- トランプ氏は日米同盟をより堅固にするためには日本の軍事力を高める必要がある
- > そのためにはアメリカ製の武器をもっと買いなさい
- > 攻撃能力を高めるための法案も必要（安倍政権時）
- 日本製品が大量に入るのを阻止するための関税
- ハリス氏は日本を最重要同盟国と考えている
- アジアの平和を構築するために共に協力しあう事が大切である
- 共に経済を良くするためには協調も大切である

2期目のトランプ政権

- 1期目は政治の素人的な部分があった
- 大統領の指示を受け入れない官僚に苦しめられた
- 今回の議会選挙で上下院とも共和党
- 反トランプを掲げた共和党議員の多くは落選
- 自分の考えに反するものは政権から追放する
- > イエスマンの集合体になる
- 法律にも苦しめられた
- > 専門の弁護団を組織し法解釈の変更等を画策

最高裁判所裁判官にトランプ支持者を

2期目のトランプ政権

- 民主党によって壊された国の再建を政治目標にした
- 自分の目標達成のために何でもやることになる
- > 3期目はないので4年間で出来ること全て
- > 過去の規範や伝統、法律に配慮することをしない



- 大統領就任直後から大統領令を頻発する可能性大
- 現在抱えている裁判は全て中止 > 大統領訴追なし
- 世界情勢よりアメリカが良ければ何でもやる

2期目のトランプ政権

- トランプ外交はディール(取引)を基本とする
- 集団での交渉ではなく1対1の交渉で対応
- > 自国(自分)がどのような得をするのかが判断材料
- ファーストインプレッションで交渉相手を判断する
- 強いリーダーを好む > プーチン ネットanyahu 周近平 金正恩



- 石破氏は上手くやれるか 一人では無理かも
- 尹大統領やEUの首脳と一緒に対応するのも1つか

トランプ氏、大統領首席補佐官にワイルズ氏初の女性起用

[ウェストパームビーチ（米フロリダ州） 7日 ロイター]- トランプ次期米大統領は7日、大統領首席補佐官に選挙戦で選対本部長を務めたスージー・ワイルズ氏を充てると発表した。大統領首席補佐官に女性が起用されるのは初めて。

トランプ氏は声明で、ワイルズ氏について「私が米国史上有数の政治的勝利を収めるのを支援し、2016年と20年の選挙戦でも欠かせない存在だった」とし、「タフで賢く、革新的で、誰からも称賛され、尊敬されている」と評した。

ワイルズ氏はベテランの政治ストラテジスト。関係者によると、信頼できる人物とみられており、選挙戦を成功に導いたことで高い評価を得ている。マッカーシー前下院議長らも候補に挙がっていたという。



- 主席補佐官にスージー・ワイルズ氏を起用すると発表
- 初の女性首席補佐官となる

国務長官候補



リチャード・ゲレネル
元情報長官代行



ウィリアム・ハガティ
元駐日大使



マルカオ・ルビオ
フロリダ上院議員



ロバート・オブライエン
元大統領補佐官

- ウクライナ侵攻をどうするかで変化する
- ハガティ氏とルビオ氏はウクライナ支援を中止するべき
- オブライエン氏は現状を認める

国防長官候補



マイケル・ウォルツ
マイアミ州下院議員



トム・コットン
アーカンソー州上院議員



マイク・ポンペイオ
元国務長官

- ウクライナ支援を止めるべきとするウォルツ氏コットン氏
- 支援を拡大するべきとするポンペイオ氏

今回の選挙を終えて感じたこと

- ヨーロッパ諸国では女性の首相や大統領が普通に見られるのに何故アメリカではそれが出来ないのか
- アメリカのゆがんだ民主主義がそこにある
- 女性を前面に置くことは出来ない > ガラスの天井
- この考え方は白人だけではない
- 女性が如何に頑張ってもそれを認めない社会
- 宗教的な裏付けなのかも知れないが
- トランプ氏がどのような政治を行っていくか注目

今アメリカで起こっている事

ギャラップの調査

- 2023年 世界の成人16%が移住を考えている
- 移住の目的地はアメリカ・カナダが多い
- >最近低下傾向 2007年 24% 2023年 18%
- そのアメリカ・カナダの海外移住希望者が増加
- >2011年 10% ⇒ 2023年 18%
- >アメリカだけで考えると 2023年 17% 2024年 21%
- >マンモス大学の調査では1974の3倍に =34%
- 二極化の進むアメリカは決して住みやすい国ではない